

## 令和5年度 第1回学校運営協議会 議事録

1 日時： 令和5年6月30日（金）15時～16時30分

2 会場： 大阪府立三国丘高等学校 校長室

3 出席者：

〔委員〕 田中満公子会長、仲林信至副会長、河野泰之委員、  
平松勝己委員、（井上博史委員、吉岡哲郎委員：ご欠席）

〔学校側〕 藤井光正校長、福本美紀教頭、中島泰志事務部長、田中和代首席、吉田憲司首席、  
大塚雅之教諭、宮根隆教諭、北川晃士教諭  
尾崎勇魚教諭、中津佳人教諭、（田中洋平教諭：欠席）  
本田悠教諭、杉山拓司実習教員

4 次第

① 校長挨拶

② 出席者紹介

③ 学校運営協議会実施要項について

④ 議事

（1）令和5年度学校経営計画について、スクールミッションについて（報告）

〔委員〕 大学では男女共同参画が問題になっている。女性研究者の割合、女子学生の割合低い。今後の日本のためには女性の進出、女性リーダーの育成が必要である。本校経営目標にはジェンダーの事が一切ない。もしなにかあるのであれば書いてほしい。

〔学校〕 SGH フィリピンツアーは22名全て女子生徒。割と三国丘の女子は元気である。

〔委員〕 女子が上に立ちたがらない傾向である。

〔学校〕 男女いる部活のリーダー部長は男子が多い傾向にある。

〔委員〕 若い頃に背中を押すべきであり、経験を積ませてあげるの大切である。

〔委員〕 昨年度の低評価項目について。今年度どう改善するか。

〔学校〕 生活態度についての指導を強化する。三丘セミナーは講座回数より質のほうが重要と判断した。

〔委員〕 全体的に量より質という方向性だが、具体的に変わった点、一例を示してほしい。

〔学校〕 三丘セミナーなど、医療系志望者向けに現場体験や様々な新しい取り組みをしている。

・スクールポリシーについて（報告）

〔委員〕 三丘スピリットについて。文武両道であるほうが当然望ましいが、学校として具体的にどのような考え、取り組みをしているか。

〔学校〕 武とはスポーツのみにあらず、教科以外のことすべて、つまり文化部含む部活動や探究活動も含むと解釈している。1年生の部活加入状況は、兼部があり100パーセントを超えている。

〔委員〕 スクールポリシーの位置づけは？何かに基づくもの、あるいは何かのもとになるものか。

〔学校〕 学校の端的な方向性。教育委員会の指示事項を各校の取組みに落とし込んだ形。単年度の経営計画とも関連している。

〔委員〕 ライバル校との違いは何か？

【学校】 三国丘では主にグローバルリーダーをしっかりと育てる。生徒主体で取り組む。去年の第二回学校運営協議会で出てきたのは、三国丘は自由な学校である。尖った生徒も出てくる。その中で尖った先生がいるから尖った生徒が生まれるという話だった。今それを思い出した。

【委員】 大学の場合は世界全体のランキングがある。レピュテーション、大学の研究者同士の評判を聞かれる。カラーが明確な大学のほうが高い評価を得やすい。カラーを明確に言葉にすることが大切である。どこの大学でも具体的な取組みは似ている。京大の「自由な学風」は言語化しなくても国内では通用するが、国際的にはそうでもない。三国のスクールポリシーには明確なカラーが見えてこない。もう少しはっきりさせるべきである。

【委員】 大教大の例。一枚の図面にする。たとえば三国丘の授業の科目などがカリキュラムポリシーのどことつながるのか、つまりどの活動とどの言葉がつながるのかを図面化する。スクールポリシーに書いていることは素晴らしいが、具体的な教育活動の取組みと結び付けたほうがよい。

【委員】 この書式で全校出しているのか。

【学校】 そうである。

## (2) 各学年の状況について (報告)

【委員】 学年通信を生徒たちは読んでいるのか。

【学校】 配ると生徒は目を通してている。保護者には渡していないが、アプリで直接配信している。保護者にも読んでもらいたい。

【委員】 薬物乱用防止とあるが、そういった状況は今のところないか。

【学校】 ない。薬物乱用防止講座は警察の方を招いて毎年実施している。

【委員】 海外では若者にドラッグが蔓延している。日本もいずれそうなるのかという危機感がある。

## (3) スーパーサイエンスハイスクールの今年度の取組みについて (報告)

【委員】 マルティプルインテリジェンスとは。

【学校】 生徒にアンケートを回答させ、自分の8種目の特性をレーダーチャート化する。レーダーチャートからチームメンバーの強みを知り、CSのチームの能力を最大化するようにする。場面に応じて、リーダーシップ・フォロワーシップを切り替え、チームとしてメンバーの強みが発揮できるようにする。

【委員】 確かな学力とは。CSでの取組みがどのように効果を上げているのか。

【学校】 一つは専門性、体験的な深い学び。個人的には、ゴールをめざすプロセスを自分で構成することも確かな学力につながると考える。そして、進路実現にもつながる。

【委員】 通常教科の成績との関連はあるのか

【学校】 関連は不明だが、計画を立てる訓練にはなっていると思われる。

## (4) スーパーグローバルハイスクール今年度の取組みについて (報告)

【委員】 昨年度の海外大学への進学はゼロ。他のGL10校と比べてどうか。

【学校】 GL全体として海外への進学は少ない。コロナ前の三国丘は例年進学者がいた。

【委員】 海外進学はよい伝統。ぜひ復活させてほしい。

【委員】 海外進学者のその後は。

【学校】 学校として連絡を取り合っている。大学院に進学した卒業生も多い。

日本に戻ってきたときに、在校生に向けて話をしてもらおう機会も設けている。

【委員】 海外に進学した卒業生がいることは大きな財産。今後も続いてほしい。

S GHの成果としてわかりやすい部分でもある。

- 【学校】 アメリカやカナダで心理学を学んでいる卒業生とオンラインで進路相談の機会を設けた。生徒の反応もよかった。今後もそういう機会を設けていきたい。
- 【委員】 社会のためになることでなければ挑戦しがいがない。国内ではスタートアップは少ない。三国丘ではどうか。
- 【学校】 三国丘でもまず就職という傾向、教育系のスタートアップに挑戦する卒業生もいる。三丘セミナーでも企業人の講習を増やしている。長い人生の中での経験を三国丘高校でもらいたい。
- 【委員】 高校での企業人の講習は効果的。本当に優秀な人は学生のころから社会の課題を解決するという思いをもってスタートアップに挑んでいる。三国丘の生徒も頑張ってもらいたい。
- 【委員】 SGH、SSH にかかわる生徒の割合はどうか。
- 【学校】 SSH は全生徒。探究活動での外部発表は一部である。
- 【委員】 ボトムアップもできるということか？
- 【学校】 SGH は50名ほどである。

#### (5) 令和4年度 進路結果について（報告）

- 【委員】 関関同立に集まってきているがそういう指導か。
- 【学校】 保護者も含めて現役志向が強まっている。
- 【委員】 関西外の国公立に行かないのが気になる。東大も少ない。
- 【学校】 学校として関西圏への進学をすすめているわけではない。
- 【委員】 できるだけ多様なキャリアパスをもっている集団のほうが強い。
- 【学校】 関東のほうには海外の大学を専門にめざす高校も出てきている。
- 【委員】 日本の経済が停滞するなかで先手をうっておく必要もある。
- 【委員】 学校経営計画について。本質的なことの重視について具体的なエピソードはあるか。
- 【学校】 6月の学校説明会でのアンケートの中で、学校選びの基準は進学実績であった。一方、ほぼ同じ割合で学校の雰囲気や校風も重視されている。こういったところもアピールポイントにしながら選ばれる学校にしていきたい。
- 【委員】 アドミッションポリシーなどにつながっている。

#### (6) 令和6年度 使用教科書選定について

- 【学校】 基準の開示  
選定結果は後日送付する。

#### (7) その他

- 【委員】 遅刻大幅増の要因は何か。
- 【学校】 コロナ対応による変化である。
- 【委員】 必ずしも悪い傾向ではないのか。
- 【学校】 限られた生徒が遅刻を繰り返す傾向にある。
- 【委員】 集団行動への適応が低くなっている。コロナの影響もある。
- 【委員】 生成 AI の影響はどうか。
- 【学校】 本校ではあまりない。
- 【学校】 触ったことがない生徒がほとんどである。
- 【委員】 それはそれで問題ではないのか。
- 【学校】 SSH で触れる機会は設けたが、指導というほどではない。

【学校】 発表やディベートなどで生成 AI を使っている様子はない。

【委員】 生成 AI を使いこなす必要が出てくる。ものすごい勢いで使うようになっていくのではないか。

【学校】 弱点を認識したうえで使いこなすようにしたい。